



弊社のオーダーのれんには、本染め・顔料プリント・昇華転写などの染め方があり、ご要望にあわせて最適な方法をご提案しておりますが、ここでは伝統的な京友禅の技が光る“本染め”の工程をご紹介します。

京友禅“本染め”とは

染料を水で溶き生地に浸透させ、蒸し・水洗作業をすることで、生地繊維の奥までしっかり染着させる染めのことです。よくのれんで「本染めロゴ白抜き」と言いますが、これは白生地の上に型を置き、その部分に糊をのせて染まるのを防ぎます。この上から染料を刷毛でのぼして全体を染めていきます。そして染料を定着させる為、熱をかけて蒸します。最後に糊を洗い流し乾燥させれば白抜きの生地が出来上がります。“本染め”ならではの色の深みや風合いは「本物の染め」として、その美しさや高級感は突出しています。

オーダーのれん“本染め”制作工程

① ご注文

お客さまより頂いたご注文内容に基づき、生地や色味等を確認しながら、ご要望とすり合わせをさせて頂き、製作をスタートします。

② データ・染料作成

お客さまより頂いたデータやデザインソース(箸袋や名刺等)をもとに、デザイン・版下(製版)データを作成します。さらに、ご希望の色を生地に合わせて極力近づけるため染料のデータも作成します。そして染料データを元に染料を糊と合わせていきます。この時、生地素材によって使用する染料の種類が異なり、綿・麻素材には繊維分子と化学結合する「反応性染料」をよく使用します。

(写真 A 参照)

③ 型作成

製版データをもとに、特殊な溶剤を塗布した型枠に、直接インクジェットで柄を吹付け定着さす「インクジェット製版」や、製版用の紙をカッティングマシンでカットし型枠に圧着させる「ハンド製版」により、型をおこします。

(写真 B 参照)

④ 染め

染めは、磁石の力を利用してオートマチックに染める「機械捺染」と、スキージと呼ぶへらで染める「手捺染」、さらに糊置きをして刷毛で一点一点丁寧に染める「型糊引染」があります。のれんや幕には、この「型糊引染」が良く用いられます。

(写真 C 参照)

⑤ 蒸し

染色後は、まず生地を乾かします。その後さらに高圧蒸し熱機で蒸すことにより、染料を固着させます。

(写真 D 参照)

⑥ 水洗

染料が固着した後、余分な染料や糊を落とす為、水で洗い流します。

(写真 E 参照)

⑦ 縫製・検品

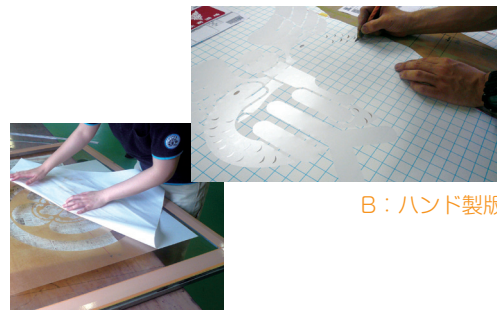
仕上げ乾燥後、ご注文内容に沿って仕立てます。

⑧ 出荷・納品

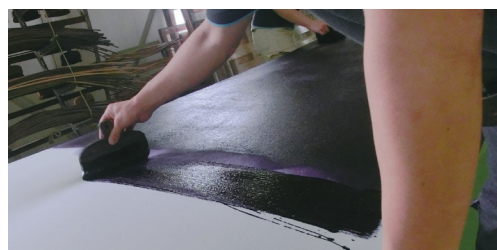
サイズや汚れ、また検針器にかけて針折れのチェックを行ない、丁寧にアイロンをかけしわをとり出荷します。



A：染料作成



B：ハンド製版



C：型糊引染



D：高圧蒸し熱機



E：水洗

この様に、弊社ではご注文頂いたのれんは、手間暇を惜しまず、一点一点丁寧に作っております。のれん・幕・のぼり等のお話しがございましたら、是非ともご用命下さいませ。